

分担研究報告書

人材育成

研究分担者 要 伸也 杏林大学 医学部・腎臓・リウマチ膠原病内科 教授
和田 健彦 虎の門病院 腎センター内科 部長

研究要旨

多職種連携・チーム医療の推進を目的として、腎臓専門医とともに看護師・保健師、管理栄養士、薬剤師を対象とする腎臓病療養指導士の育成を進めた。さらに、CKDの多職種介入に関する多施設研究班と連携し、追加解析を行うとともに、多職種介入の標準的な教育プログラム作成を進めている。また、腎臓病療養士の地域差解消に向けた取り組みも始まっている。CKD指導を担う人材育成と全国的な均霑化、多職種教育の普及を通じて、CKD診療における多職種連携が促進・強化され、CKD診療水準の向上に寄与することが期待される。

A. 研究目的：

看護師/保健師、管理栄養士、薬剤師等の人材を育成し、CKD診療に携わる医療従事者数の増加を図る。具体的には、1) 腎臓病療養指導士の継続的な育成、2) 腎臓病療養指導士の地域差是正に向けた方策の立案、3) 厚生労働科学研究腎疾患政策研究「慢性腎臓病 (CKD) 患者に特有の健康課題に適合した多職種連携による生活・食事指導等の実証研究 (代表要 伸也)」との連携による多職種連携の強化、などに取り組む。

B. 研究方法：

1) 腎臓病療養指導士の継続的な育成：第7回腎臓病療養指導士資格認定に向け、認定のための講習会の実施、研修記録の評価、試験応募および試験の実施と認定などを順次進める。また、2018年第1回認定者 (1年猶予者) および第2回認定者の資格更新を進める。

2) 腎臓病療養指導士の地域差是正：各都道府県において腎臓病療養指導士の協議会 (連携の会) を組織し、その支援策について検討する。

3) 多職種連携の推進とエビデンス構築と兵十的な教育プログラムの作成：厚生労働科学研究腎疾患政策研究「慢性腎臓病 (CKD) 患者に特有の健康課題に適合した多職種連携による生活・食事指導等の実証研究 (代表要 伸也)」(要班第2期)においてこれを進める。また、第1期で作成した「CKDのための多職種連マニュアル」を作成する。

(倫理面への配慮)

腎臓病療養指導士名を公開するにあたり、個人情報管理に十分な配慮を行った。

C. 研究結果：

1) 腎臓病療養指導士の継続的な育成：2023年5月27日東京医科歯科大学鈴木章夫記念講堂にお

いて認定のための講習会を開催し、現地およびオンラインを合わせて数百名の参加があった。認定試験には492名の応募があり、2024年2月4日に認定試験を実施、受験者327名中322名が合格となった。1～7回合計の資格認定者の合計は2,726名であるが、1～2回認定者の未更新による資格喪失者を除いて、現在の資格保有者は2,394名となった。本年度の資格更新は562名（昨年は93名）であった。

2) 腎臓病療養指導士の地域差是正：地域の実情に見合った支援が必要なことから、各都道府県の連携協議会の設立状況をアンケート調査したところ、すでに7府県で設立されていることが判明、J-CKDIブロックとの連携が取れている府県もあった。今後は各都道府県への設立を推進し、連携の会を中心に地域毎に活動を行い、療養士の育成や支援を進める。

3) 多職種連携の推進とエビデンス構築：多職種連携の多施設共同研究（全国の24施設、3015名が参加）により、多職種介入がCKDステージG3～G5において腎機能悪化を抑制することが明らかとなった（Abe M, Kaname S, Clin Exp Nephrol, 2023, Abe M, Kaname S, Front Endocrinol 2023, Abe M, Kaname S, Kidney Res Clin Pract 2023）。また、この成果を含めた多職種連携のためのマニュアルを作成し（「CKDケアのための多職種連携マニュアル」pdf版、要伸也監修、全100ページ）、これを厚労科研要班ホームページにアップした。

D. 考察

腎臓病療養指導士の増加により、CKD療養指導の知識・技能を有し、チーム医療を支える人材育成が進みつつある。しかし、人数は不足しており、活躍の場や十分ではない。今後は、地域偏在も考慮したさらなる育成を進めるとともに、腎臓専門医と連動した地域活動、糖尿病療養指導士等の他の療養士との連携を推進していく必要がある。多

職種連携のエビデンスが示されたことにより、さらなるチーム医療の推進や診療報酬の獲得に向けた取り組みの加速が期待される。

E. 結論

腎臓病療養指導士を中心とするCKD診療メディカルスタッフの育成とその効果検証が、多職種連携・チーム医療の強化を通して、腎臓病診療の水準向上に寄与することが望まれる。

F. 入力不要（総括研究報告書にまとめて記入いたします。）

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Abe M, Hatta T, Imamura Y, Sakurada T, Kaname S. Inpatient multidisciplinary care can prevent deterioration of renal function in patients with chronic kidney disease: a nationwide cohort study. Front Endocrinol (Lausanne). 2023 Jun 20; 14:1180477.
2. Abe M, Hatta T, Imamura Y, Sakurada T, Kaname S: Effectiveness and current status of multidisciplinary care for patients with chronic kidney disease in Japan: a nationwide multicenter cohort study. Clin Exp Nephrol 2023 27(6):528-541.
3. Abe M, Hatta T, Imamura Y, Sakurada T, Kaname S: Examine the optimal multidisciplinary care teams for patients with chronic kidney disease from a nationwide cohort study. Kidney Res Clin Pract. 2023 Oct 5. doi: 10.23876/j.krcp.23.026. Online ahead of print.

2. 学会発表

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

1. 阿部雅紀, 八田告, 今村吉彦, 櫻田勉, 要伸也 : 腎臓病療養指導士介入の効果と検証:腎臓病療養指導士とともに行う CKD チーム医療の効果. 第66回日本腎臓学会学術総会, 2023年6月9日~11日, 横浜.

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

該当なし